

『実践!高齢者のフィジカルアセスメント』



看護学科特任教授 **大西 基喜**
オオニシ モトキ

角濱春美著 大西基喜医学監修・
著 メディカ出版
2017年4月発行
492.929||Ka14

この書は角濱先生との共著です。企画も表題も、表題に見合う内容もすべて角濱先生が主役ですので、はなはだ気が引けますが、ご依頼に応じまして私の方で紹介してみます。

高齢化が進んでいるわが国の現状では、病気を持つ方が相対的に多いことと合わせ、高齢者のケアはますます重要なテーマとなってきました。高齢者のケアにはさまざま注意を要する課題がありますので、その点に特化したアセスメントのテキストは有意義なものと思います。

さて、2020年2月、新型コロナウイルス肺炎がわが国にひたひたと押し寄せています。この肺炎はデータを見ると高齢者に相当厳しいようです。恐らく高齢者の免疫低下が数字に表れているのでしょう。しかし、「高齢者は免疫が低下している」という一般命題は注意が必要です。平均値的な特徴を個々の高齢者に全面的にあてはめると、agismに陥ってしまいます。実際は高齢者の特徴は「公約数」的なもので、個人差はむしろ若年者より大きいと考えるくらいがよいでしょう。その意味で、個々に合わせたケアにとりわけ心を砕く必要があります。

そのような前提に立つと、角濱先生の記載になる第2,3章では、問診を含め、身体的・精神的アセスメントは、高齢者の公約数的な特徴を踏まえつつ、個々の患者さんの状態を念頭に置いた極めて具体的な記述となっています。アセスメントは個々の患者さんに何が起きているのか、今後どうなっていくのかを知る、つまり「診断」であり、その正確な把握はケアという行為全体の鍵になります。ここで示された基本的なポイントや具体的な事例は学生さんのみならず、現場で働く人にとって実践的で有用なツールとなるでしょう。本書が高齢者のケアの質向上に役立つことを切に祈っております。